

ご自身を輝かせるだろう。

社会人の「コスプレ」はいつ板に付くのか

石黒 ゆかり（福島少年鑑別所）

まず、本原稿は私見であり、所属施設の見解ではないことをお断りさせていただきます。

社会人となって3年が経とうとしている。その中で本学会は「社会人」について改めて考える機会となった。結論から言うと、私は未だ社会人の「コスプレ」をしているに過ぎない。では、社会人になるとはどういうことだろうか。私の短い経験ではあるが、その中から感じたことを述べたいと思う。私の考える社会人とは、①健康に働くこと、②想定外に対応できる余裕を持つこと、③自分の限界を知ることだと考えている。そして、自分のことをよく理解していることがこの3つに共通していることではないだろうか。

これまで私は瞬発的に力を出し、目の前の課題だけを見ていたように思う。しかし、働き始めて3年目、これでは続かないことを痛感しているところである。いくら最悪の事態を想定しても、それを超える想定外が降りかかってくることもある。自分の状態を理解し、自分の力だけでは解決できないことは周囲を積極的に頼っていくことも社会人として必要な力のひとつではないだろうか。

そう考えると、私はまだまだ社会人になりきれていない。そういう意味で社会人の「コスプレ」という表現をさせていただいた。「コスプレ」という変身ではなく、社会人であることが自分にとってさりげない日常、素の自分であると感じられるようになったときに、社会人になったといえる、つまり社会人の「コスプレ」が板に付いたときだと思う。

そして、自分の「コスプレ」状態に甘んじず、自分のできることの少し上を目指して、自信を持って社会人になれたと言うことができるようにしたいと思っている。

学生から社会人になること

藤澤 由羽（岩手県信用保証協会）

学生から社会人になることについて、ライフスタイルこそ変われど、全く異なる存在になったわけではないことを実感する日々を送っています。それは、仕事と並行して自分自身のやりたいことができていると思えるためです。

私が就職した岩手県信用保証協会とは、中小企業を財務面や経営面から応援するような仕事をしているところで、現在所属する部署では、実際に現場で仕事をする職員をサポートすべく、外部機関とのやりとりや報告資料の取りまとめ等を行っています。このように平日のある時間帯は会社へ行き仕事をしていますが、その一方で仕事終わりの時間や休日を使って、陸前高田市民や現役の学生たちと一緒に企画に取り組む等、学生時代の延長のようなことをしています。

学生時代は、岩大 E_code という陸前高田市を応援する有志団体に所属し活動していました。そこでは、時に祭りのポスターを作成したり、陸前高田市民と一緒に企画を作り上げたりしていました。活動を通して、人と人がつながっていくことの楽しさや、そうしたつながりのおかげで誰かのやりたいことが叶ったり、地域の課題が解決したりと、つながりがも